

【事例発表1】（北筑後地区）

野添悠悠クラブ事例紹介

久留米市老連副会長 野添悠悠クラブ会長 坂本勝己

はじめに

当クラブは、上津校区老人クラブ連合会会員数815人(年度当初)の内、単位クラブ2番目の111人を擁しており、会員の男女比は男性42%、女性58%となっています。

以下、本年度単位クラブ活動計画に沿って単位クラブの在り方についても反芻しながら事例紹介を試みたいと思います。

1 年度計画は、県及び市老連行事参加を除き25項目、年間を通して行う毎月行事4項目に及びそれらを分類すると次のとおりです。

- ① 懇親会（新年会・研修会×2・総会）4回
- ② 健康講話（要介護予防）2回
- ③ 世代間交流（小学校・中学校）4回
- ④ 歴史文化・史跡研修（春と秋）2回
- ⑤ スポーツ大会4回（春と秋のグラウンドゴルフ・ペタンク・カローリング）
- ⑥ カラオケ大会2回（春と秋）
- ⑦ 奉仕活動（主に公園愛護）14回
- ⑧ 地域交流行事1回
- ⑨ ミニ・グラウンドゴルフ12回
- ⑩ サロン活動12回（細部後述）
- ⑪ 町内行事参加3回（夏祭り、敬老会等）
- ⑫ 一斉ふれあい食事会参加2回

2 高齢者の地域活動の機会／場を用意して閉じこもりや孤立者を出さない取り組み、特に会員が歩いて行ける小地域範囲の活動を重視し、14の小地域組織（班）をつくり高齢者相互支援・一声運動活動を展開しています。また、前述⑩のサロン活動は、野添サロンと称し徒歩で集まる地域公民館において、毎月30人ほどが集い多種多彩の活動を企画し、その特徴は参加者のそれぞれが自らの人

生体験・知恵の一端から得意なことを自由に選び例えば、料理講習・健康講話・犯罪事例と対処要領・ペタンク・グラウンドゴルフ・着付け・押し花づくり・三味線合唱・童謡／唱歌合唱などの担当(講師)を交替に務め、90分の時間を忘れるほどに楽しみ、次回の集いを待ち遠く感じるほどに好評の活動となり、おしゃべり集いサロンの輪を広げています。

3 クラブ活動の三大狙い

- ① 各班会員仲間の相互支援を充実し、独りぼっち、孤立の人をつくらない。
- ② 会員仲間の交わり、お喋りやスポーツを皆で楽しむ活動の機会と場がある。
- ③ 何か困った時に相談出来る他人(会員)がそこにいる。

会員自らの対処要領(自助)を整え、会員相互の支援(共助)活動により、安心して、人生の第2章をより楽しく心豊かに、元気に老いを迎える。その環境づくりを共同作業で行い、確かなものにする途上にあります。

4 おわりに

クラブ活動は小地域会員の安心、生きがいの「点」に始まり、地域各種団体との連携ネットワークの「面」とするまちづくり、それが単位老人クラブの在り方と捉えています。